

I. 修学

目や取得単位数を自分自身で確認するための重要なものです。また、各学期の履修登録の際に参考となる資料です。必ず確認してください。

(5) 成績表の留意点

発表される成績は、履修登録した科目のみが表示されており、成績評価に基づいて「S・A・B・C・F・欠・P」が表示されています。通年科目の場合、前期の成績発表時には、履修中を意味する「履」が表示されています。

(6) 追試験・再試験

成績によって追試験や再試験の対象となる科目があった場合は、5成績評価方法の(4)追試験、(5)再試験を参照してください。

(7) 成績の疑義の申出および不服申立て

成績評価に疑義および不服がある場合は、「富山国際大学現代社会学部授業科目の履修に関する規程」または「富山国際大学子ども育成学部授業科目の履修に関する規程」により申出することが可能です。当該科目を受講した翌学期の履修登録期間中に学務課（教務）または呉羽事務室まで申し出てください。詳細は規程を確認してください。

7 単位修得

(1) 単位修得

履修科目において、成績評価が合格（S・A・B・C）、認定（P）となった場合、単位修得となります。

(2) 単位計算方法

「1単位＝45時間の学修」を標準とします。45時間の学修には、授業時間だけでなく、授業外学修時間（予習・復習・課題提出・各種活動等）を含みます。

授業時間は、45分の授業をもって1時間の学修時間とみなします。1コマの授業時間は90分で、2時間の学修時間を意味します。

単位計算方法

授業種別	授業時間	授業外学修時間	認定単位数
講義・演習	15時間	30時間	1単位
実習・実技	30～45時間	0～15時間	1単位

現代社会学部では、卒業論文の作成に必要な研究調査時間を4単位とみなしています。

単位認定は「専門演習Ⅱ（卒業研究を含む）」と併せて行います。

8 GPA (Grade Point Average)

(1) GPA制度

本学では、学生の学修意欲を高めることおよび学生に対する学修指導・支援や学修成果の可視化等に活用することを目的としGPA（Grade point Average）制度を導入しています。

GPAは、世界標準の成績評価方法です。成績通知表に記載されていますので、自身の履修状況を客観的に把握し、履修計画を立てる際等に活用してください。

(2) GPAの算出方法

成績評価基準にある評価に対するGrade Point (GP)の平均により算出します。

不合格科目（評価「F」「欠」）は、GPA算出科目に含まず。

単位認定科目（評価「P」）は、GPA算出科目から除外します。

【GPAの算出方法】

$$\frac{S \text{ の修得単位数} \times 4.0 + A \text{ の修得単位数} \times 3.0 + B \text{ の修得単位数} \times 2.0 + C \text{ の修得単位数} \times 1.0}{\text{単位認定科目を除いた総履修登録単位数（「F・欠」の単位数を含む。）}}$$

(3) GPAの具体的活用方法

① ゼミ担当教員からの学修指導

GPAの満点は4.0です。4.0に近い数値であれば、学修意欲が高く優秀であると言えます。極めて低い数値であると進級や卒業できない事態に陥ります。そのような事態を避けるために、ゼミ担当教員や担当部署等から様々な指導（アドバイス）があります。

② 学生表彰、奨学金対象者などの選考・支援

本学には、学生表彰、奨学金・奨励者制度があります。選考は、学業態度と成績評価（GPA含む）を勘案して行います。したがって、奨学金を給付されていた学生であっても、学業態度・成績評価により制度要件を満たさない学生は、奨学金の給付が停止される場合があります。

③ 「実習」履修に係る指導

学部によっては、GPAが一定の水準に達しない場合は、資格免許にかかわる学外実習の履修が許可されないことがありますので、注意してください。

④ 退学勧告

学習・学生生活に対する助言指導にもかかわらず学修意欲を示さない学生に対しては、進路変更の考察も促す目的で、退学の勧告を行うことがあります。

成績評価が決定した時点で、当該学期のGPAが1.0未満（成績不振）の場合は、担当教員による学生本人との面談（学修指導）が行われます。

a. 学期GPA 1.0 未満が1回目の場合

ゼミ担当教員の面接・指導（父母等との面談を実施する場合あり）。

b. 学期GPA 1.0 未満が2回目の場合

ゼミ担当教員の面接・指導および父母等との面談を実施。

c. 学期GPA 1.0 未満が3回目の場合

学部長により退学勧告。

心身の健康上の理由から、やむを得ずGPAの数値基準を満たすことができなかつた場合には、面談（学修指導）は行われますが、上記の回数から除外します。

退学勧告は、「退学」を強要・強制するものではありません。大学における学生生活とは別の選択肢をとるかどうかの判断は、学生自らの判断に委ねられます。

退学勧告後、学生自らの判断で退学し、改めて修学する意欲が生じた場合には、再入学が認められる場合があります。（学則第17条）

⑤ GPAによる履修できる上限単位数の変動

学期あたりに履修できる単位数は、各学部で定めている「履修に関する規程」で、原則として上限が22単位と定められています。ただし、履修した学期の成績評価に基づくGPA数値によって、翌学期に履修できる上限単位数が変動します。これは、成績優秀者はさらに学びを深め将来の人生に役立ててもらいたい、また、成績不振者は、学んできたことをじっくりと学び直す時間を持ってもらいたい等の目的のもとで制度化したものです。具体的には、次表のようになります。

CAP制による履修上限単位数

前学期のGPA	翌学期の履修上限単位数
3.2以上	26単位
3.2未満（標準）	22単位

(4) 留意事項

本学では、原則として「履修登録した科目」に基づきGPAを計算します。したがって、安易に履修放棄して不合格となる評価（「F」「欠」）となった場合、GPAを下げることに繋がりますので注意してください。誤って履修登録した場合でもGPA計算の対象となりますので、その場合は必ず所定の履修登録確認期間内に履修登録取り消しの手続きを行ってください。